

## 自己評価報告書

平成23年 5月11日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530592

研究課題名(和文)

青年期から成人期前期までのアイデンティティ発達のプロセスとメカニズムに関する研究

研究課題名(英文)

RESEARCH ON THE PROCESS AND MECHANISMS OF IDENTITY DEVELOPMENT FROM ADOLESCENCE TO EARLY ADULTHOOD

研究代表者

杉村 和美(SUGIMURA KAZUMI)

名古屋大学・発達心理精神科学教育研究センター・准教授

研究者番号：20249288

研究分野：発達心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：教育系心理学、生涯発達、アイデンティティ

## 1. 研究計画の概要

本研究では、①長期縦断研究により関係性のレベルから見たアイデンティティの発達の方向性を検討するとともに、②短期縦断研究により関係性のレベル変化のメカニズムを明らかにすることを目的とする。

具体的には、第1に、研究代表者がこれまで大学3年生から卒業までの3時点および卒業後5年目に追跡調査を行った約30名の対象者について、卒業後10年目の追跡調査を実施し、11年間(計5時点)にわたる関係性のレベル変化とその要因を明らかにする(研究1)。第2に、大学生を対象とする約6ヶ月間の短期縦断研究を実施し、レベル移行のプロセスをリアルタイムで記述する(研究2)。

## 2. 研究の進捗状況

## 研究1：

(1) 25名の成人期女性を対象に大学卒業後12または13年目時点での面接調査を行い、関係性のレベル、前回(卒業後5年目)の調査時点からの関係性のレベル変化に関わる要因、レベル変化の途上の状態についての主観的認識に関する語りデータを収集した。

## 研究2：

(1) 大学生1年生170名を対象にした5週間の短期縦断研究の結果をもとに、アイデンティティ発達をリアルタイムで捉える方法論を検討した。その結果、①他者との対話パターンの変化を通してアイデンティティ発達をリアルタイムで捉えることが可能であること、②今後のリアルタイム分析に利用

できる5種類の対話パターン(自己と他者の視点の協応の仕方)が見いだされた。

(2) 上記(1)の成果をもとに、大学新入生を対象にした15週間の短期縦断研究を実施した。具体的には、大学1年生12名が参加する全学教養科目をフィールドとして、学生同士のグループ討論を通じた関係性のレベル変化を捉えるデータを収集した。現在のところ、自己と他者(学生と仲間)のグループ討論での会話からいくつかの対話パターンを抽出しつつある。

(3) 他者との対話(グループ討論)の長期的なアイデンティティ発達への影響を検討するために、(2)の対象者について、調査終了1年後のフォローアップ調査を行った。

## 3. 現在までの達成度

## ③やや遅れている

(1) 研究1、2ともにデータの量が膨大であると同時に、緻密な質的分析の能力を要求する。そのため、研究内容を十分に理解した研究補助者を必要とするが、本研究における関係性の概念の複雑さのために、トレーニングに予想以上の時間が必要であったことによる。

(2) 研究2がアイデンティティ研究における全く新しいアプローチであるため、参考になる先行研究は少なく、方法論の検討およびデータからの対話パターンの抽出に非常に多くの時間が必要であったことによる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

研究2の分析を終了させることを最優先とする。そのため研究1の分析は見合わせる。具体的には、研究2について7月までに学生同士のグループ討論での対話パターンを抽出することを集中的に進め、その後、それぞれのパターンがどのような推移をたどるのか、および、その推移のあり方と1年後のアイデンティティ発達との関連を検討する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. Sugimura, K., & Shimizu, N. The role of peers as agents of identity formation in Japanese first-year university students. *Identity: An International Journal of Theory and Research*, 10, 106-121. 2010年、査読有

2. Sugimura, K., & Shimizu, N. Identity development in the learning sphere among Japanese first-year university students. *Child and Youth Care Forum*, 40, 25-41. 2011年、査読有

[学会発表] (計2件)

1. 杉村和美 関係性の観点から見たアイデンティティ発達 岡本祐子企画 自主シンポジウム「アイデンティティの生涯発達における『個』と『関係性』をどうとらえるかー理論的再考と実証研究の方向性ー」日本発達心理学会第20回大会発表論文集, 24-25. 2009年3月24日、東京、日本女子大学
2. Sugimura, K. Change in educational policies and identity formation among university students in Japan. S. Kazumi (Organizer), *Emerging issues concerning identity development in different countries*. Interactive session conducted at the 18th Annual Conference of the Society for the Research on Identity Formation, Daytona Beach, FL. 2011年2月5日、アメリカ、デイトナビーチ